

取組の背景

- 福井県は、世帯当たりの自動車保有台数が全国1位、かつ、人口10万人当たりの交通事故死亡者数が全国ワーストクラス
- これまで事故の発生状況を踏まえた対策をしてきたが、事故を未然に防ぐべく、デジタル技術を活用した交通安全対策を検討
- 2021年6月より、弊社・福井県・福井県警察が連携し、弊社のデジタル（テレマティクス）技術を活用した新たな交通安全対策を開始

福井県・福井県警

課題

- 世帯当たり自動車保有台数 **全国1位**
- 人口10万人当たりの死者数 **全国ワーストクラス**
- 高齢ドライバーの増加

事故を未然に防ぐために、
デジタル技術を活用した交通安全対策を検討



あいおいニッセイ同和損保

弊社が持つデジタル技術「テレマティクス」

➢ 走行データをもとに、運転特性に応じた保険料割引・運転アドバイスなど事故の未然防止につながるサービスを提供

通信車載器等でデータを取得

<取得できるデータ例>

- 走行距離
- 走行時間帯
- 急発進
- 急ブレーキ
- 急ハンドル

デジタル（テレマティクス）技術を活用した新たな交通安全対策を開始

取組内容

- 弊社のテレマティクス技術により県内ドライバー（454名）の運転データを取得し、危険運転発生地点を示す「福井県交通安全マップ」を作成・公開。
- 取得したデータを活用し、事故実績に基づく事後対応ではなく、危険運転エリアに対する先手先手の対策を行うことで、事故の未然防止を志向。

運転挙動データ収集

期間：2021年10月～2022年1月
エリア：福井県福井市内（明新地区周辺）
参加者：県内企業、教育機関、県民（454名）



「福井県交通安全マップ」作成・公開



対策実施・効果検証

① 対策実施

福井県交通安全マップ

テレマティクス自動車保険の契約データも活用（急減速多発エリア）

② 効果検証

テレマティクス自動車保険の契約データで分析

国内走行データ **124億km分**

取組に関する実績・成果

アウトプット①

- 弊社テレマティクス技術により**危険運転発生地点をあぶり出し、「福井県交通安全マップ」を作成。**
- 当該マップの活用**により、福井市明新地区が**ゾーン30エリアに指定。**



急ブレーキ、急加速、急ハンドル、速度超過、スマホ使用をあぶり出し、地図上に可視化。

活用



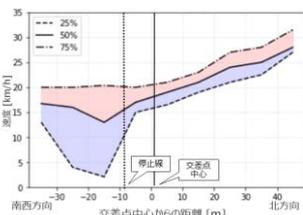
「ゾーン30」とは…

- 生活道路における歩行者等の安全な通行を確保することを目的とした交通安全対策の一つ。
- 区域（ゾーン）を定めて時速30km/hの速度規制を実施するとともに、その他の安全対策が必要に応じて組み合わせ、ゾーン内におけるクルマの走行速度や通り抜けを抑制するもの。

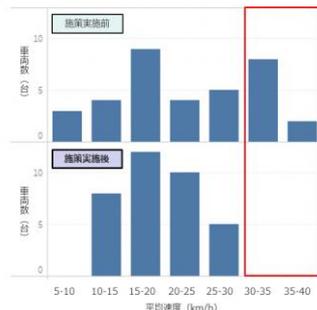
アウトカム①

ゾーン30エリア指定による効果を**弊社テレマティクス自動車保険の契約データで検証**した結果、**車速抑制効果を実証。**

交差点進入時の速度分析



施策実施前後の平均車両速度比較



※本グラフは分析のイメージであり、実際のものとは異なります。

アウトプット②

福井県交通安全マップを用いた**データ分析学習が実施**され、小中学生が**通学路の交通安全対策を検討・発表。**



アウトカム②

児童生徒の**交通安全意識やデータ分析への関心を高める**ことができ、地域の**デジタル人材の育成に寄与。**

データと実体験をもとに交通安全について考えるきっかけになった

通学路で危険運転がたふさんあることだけでなく、一番多く発生している時間帯などを詳しく知ることができた

グループで調べるときは少し不安だったけれど、しっかり発表ができて良かったです。小学校の時に似たような活動をしたことがあったけれど、その時は情報の量が全然違って、ちゃんとまとめられる心配でしたが、しっかりまとめられて良かったです。データサイエンスについては話を聞いて、僕たちが行ったような活動が、とても身近なアプリの裏で行われていると知り、驚きました。とても貴重な経験になったと思います。

4組
発表では、明新、中野、河合の3地区の危険なところについて伝えました。レーキ、急発進など様々な問題や危険がたくさんあることだけでなく、それ時間帯などを細かく伝えて、現状を知ることができました。最後の話で様々な業界で役に立っているデータサイエンスの凄さを感じました。また、データらん、国語や英語の力も必要になることを学びました。様々なところでデータが活躍していると感じました。

データ分析への関心が沸いた